

舞中島地区の文化的景観

—洪水と共に生きた風景—

国選定重要文化的景観選定を目指した取り組み



水田と高石垣の屋敷

舞中島地区の「文化的景観」とその特徴

1. 「文化的景観」とは？

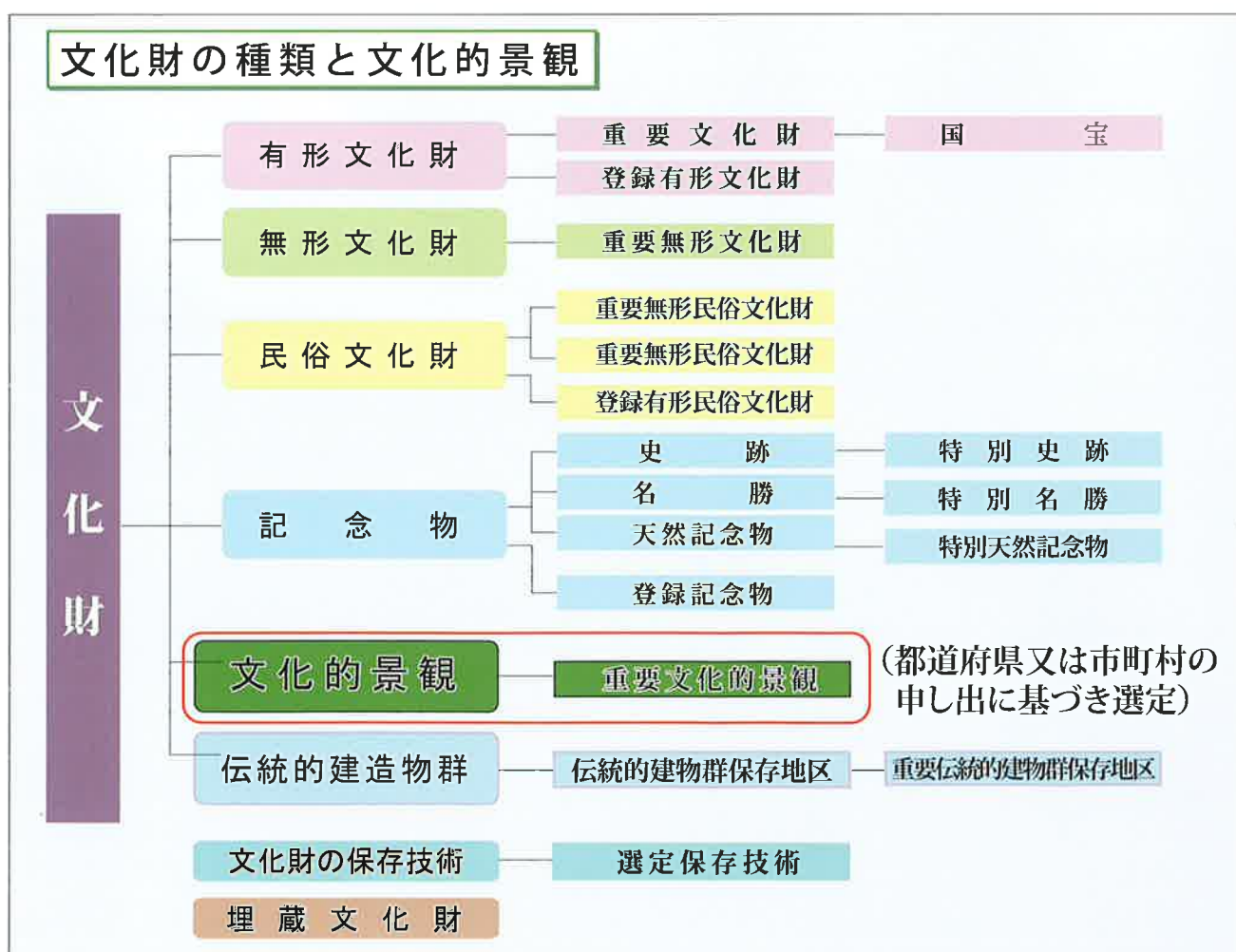
「文化的景観」とは、地域の風土に根差した人々の生活や生業が育んだ景観地のことを言います。

文化的景観は、日常生活に密着したもののため、日頃はなかなかその価値に気付かず、保護への取り組みも進めにくいものです。そこで、文化的な価値を評価し、地域で護り、次の世代へと継承していく制度が設けられています。

文化的景観の中でもとくに重要なものは、都道府県または市町村の申し出に基づき、国が「重要文化的景観」として選定します。

重要文化的景観に選定された場合、日常の生産活動や災害に伴う応急処置以外の行為は、文化財保護法により、文化庁長官に届け出るようになります。

また、文化的景観の保存活用のための修理・修景事業や普及・啓発事業には、国からの経費補助が行われます。



2. 舞中島地区の景観の特徴

舞中島地区の景観の特徴は、吉野川の洪水との共生という生活文化によって形成された特異な集落景観です。

舞中島地区は、洪水と隣り合わせの自然条件にありました。しかし、人々は、工夫をこらし、この地に住み続けました。

この背景には、近世から近代の初めにかけて盛んだった藍の栽培があげられます。藍は、連作障害の起きやすい作物ですが、洪水の土砂が流れ込む舞中島地区では、連作障害が起きにくかったのです。

洪水による客土を利用するため、島の周囲には、低い「掻き寄せ堤」と水勢を弱め、流水等を防ぐ竹林を備えるにとどめました。

島内でも低く、洪水の泥水が入る場所は、畑地として利用しました。家屋は、島内でも高くなった場所に構え、さらに高石垣で基礎を高くし、周囲には竹林や生垣をめぐるせました。墓や石造品にも、水に浸からないよう、基礎のかさ上げをしたものがみられます。

その後、栽培する作物の変化によって、洪水は、「災害」の側面が大きくなっていきました。

しかし、これまで積み重ねてきた洪水への備えと経験を生かし、舞中島での生活は、つづけられました。

現在では、吉野川の氾濫による洪水の危険性は低くなりました。

しかし、近年でも、内水氾濫により、稀に洪水が発生していることを忘れてはなりません。



かさ上げされた屋敷と周辺の様子



昭和 29 年 台風被害の様子



かさ上げされた地蔵（左）と墓（右）



舞中島地区と吉野川・明連川の位置

3. 重要文化的景観に選定されたら

○できること・予想されること

○「舞中島」の知名度が向上します

- ・知名度の高さを利用し、「舞中島」の名を冠した商品の販売機会が増えます。
- ・舞中島地区を訪れる来訪者が増えることで、地元商品の販売等の機会が増え、地域が活性化します。
- ・うだつの町並み（協町南町重要伝統的建造物群保存地区）との連携が行われた場合、年間約20万人もの観光客を取り込んだ新しいビジネスチャンスが生まれます。

○舞中島地区の景観が持つ意味・大切さが正当に評価されます

- ・重要文化的景観に選定されることは、先人が苦勞し、長い時間をかけて築いてきた舞中島地区の景観の重要さ、家並みの特徴などを国が正当に評価したことを意味します。

○住みやすい環境と美しい家並みが形成されます

- ・道路や公園の整備にも、景観への配慮が行き届くようになります。
- ・舞中島地区の「価値」「良さ」などを生かした独自の地域づくりを加速させることができます。また、一定の要件を踏まえた場合は、国の補助金等が得やすくなります。

○重要な建造物の補修には補助がつきます

- ・舞中島の景観を形成するうえで、「重要な建造物」、「重要な要素」と認定された建物などの補修・修理には、国の補助金を受けることが可能になります。また、「重要な建造物」には固定資産税の減免措置があります。

【参考】地域の良さを再認識し、誇りと愛着を育む（滋賀県近江八幡市の例）

近江八幡市では、良好な景観形成が地域の良さを再認識させ、誇りと愛着を育むきっかけとなりました。さらに、地域のコミュニティのつながりが強化され、地域力の向上に結び付いていくことも期待されています。

景観計画の策定を通じて、市民の関心が高まり、小学校で景観づくりの学習が行われたほか、集落や河川の清掃ボランティア活動が活発に行われました。

また、全国で初めて重要文化的景観に選定されたことがテレビや新聞、雑誌等に取り上げられたことにより、市民の景観に対する関心がさらに高まり、現在では地元の高中生や企業も清掃ボランティア活動に参加しています。



良好な景観形成を進めることによる効果・影響

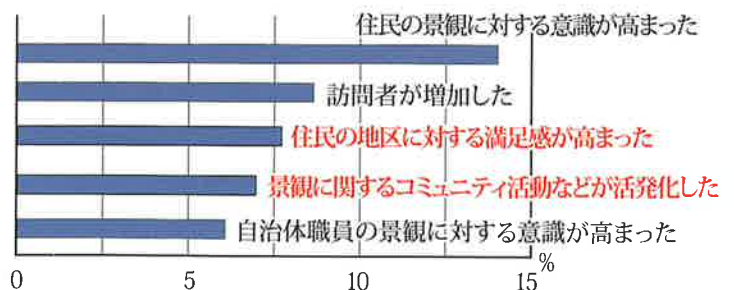
（上位回答のみ抜粋）

（平成19年2月、国土交通省景観室実施の全国自治体アンケート：対象自治体数1,837）

良好な景観形成の効果・影響について

- 「人口や経済等の効果」
（訪問者の増加、消費額の増加、人口の増加、地価の上昇等）
- 「満足度などの効果」
（景観意識の向上、コミュニティ活動の活発化、満足感の向上等）
- 「マイナスの影響」
（交通渋滞の増加、訪問者による迷惑行為の増加、地域らしさの喪失等）

から、該当するものを複数選択して回答



5. 舞中島の景観を守り育てるための取り組み

舞中島地区の景観の重要性を住民の方々に知っていただき、さらに、地域の誇りとしてこの景観を守り育てるため、市では重要文化的景観選定に向けた取り組みを行っています。

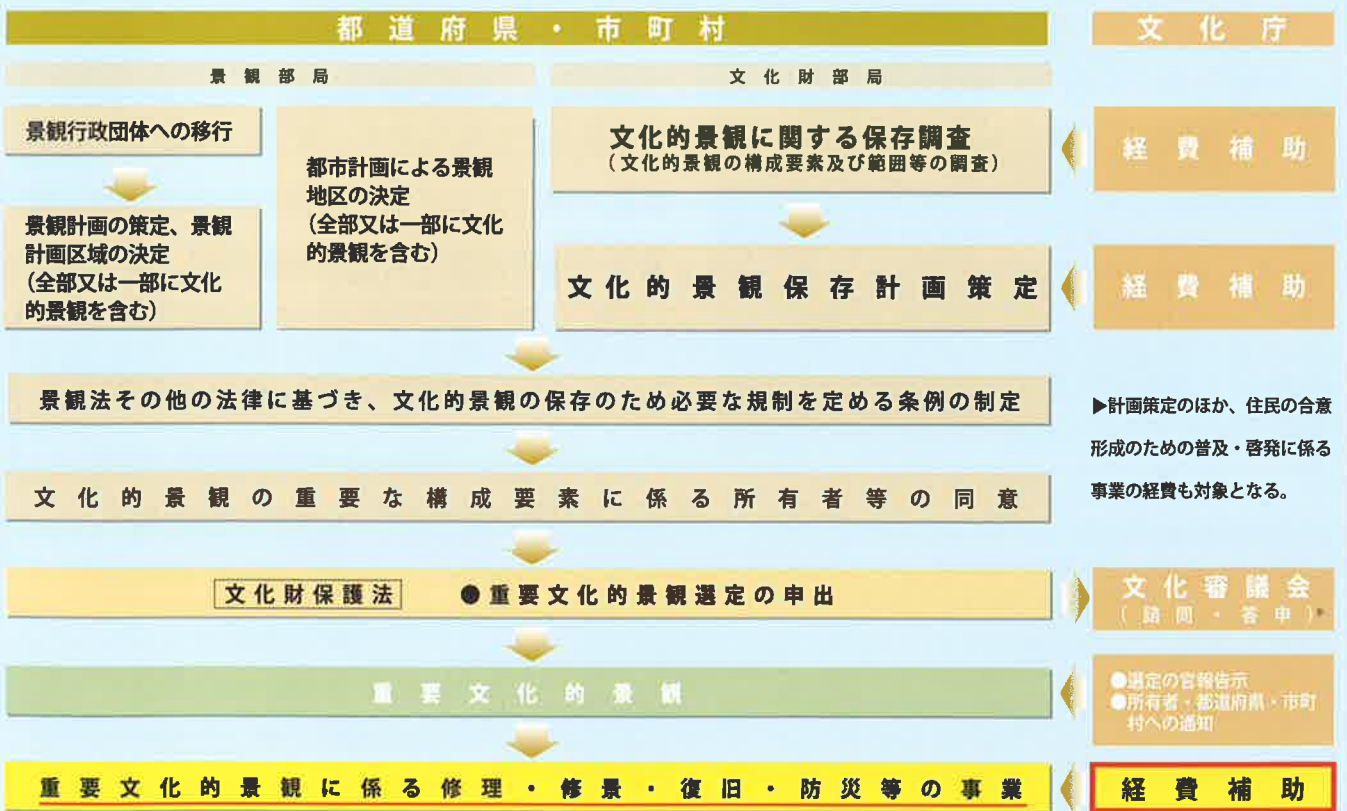
まず、舞中島地区の景観の重要性を把握するため、各分野の専門家による景観調査を実施しました。さらに、市民代表、学識経験者、行政、関係機関からなる「舞中島文化的景観保護検討委員会」を設立し、景観のより好ましい発展の方向性のための手立てについて検討してきました。その結果を受けて、現在、文化的景観保存計画の策定を進めています。

舞中島地区は「うだつの町並み」として全国に知られている美馬市脇町南町重要伝統的建造物群保存地区と同様に、歴史的な景観の存在する場所です。

いっぽうで、美馬市の中心市街地にほど近く、利便性の高い土地でもあります。そのため、舞中島地区の景観の保存と発展とが調和し、より暮らしやすい地域作りに向けた方策の検討を進めています。

今後、重要文化的景観選定に向け、皆様方のご協力、ご参加を得て作業を進めたいと考えておりますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

◎ 文化的景観保護制度の流れ



お問い合わせ先
 美馬市教育委員会 文化・スポーツ課
 〒771-2195 美馬市美馬町字天神 121 番地
 電話 0883-63-2177
 FAX 0883-63-5554

(平成25年3月31日版)

中世

応永3年(1396)
伊射奈美神社棟札



標高44mの通称「山の上」に建立された伊射奈美神社。洪水時には、東舞集落の避難場所となった。

近世

天正10年(1582)
大洪水

元禄14年(1701)
大洪水により全戸流出。
この頃から、光泉寺をはじめ、石垣を持つ建物が増加？



近世の舞中島地区のようす
文化10年(1813)
「棟付家引帳」(戸籍のようなもの)
居宅155棟、土蔵21棟、寝床6棟
厩50棟、牛屋49棟、納屋21棟、
長屋門1棟、門4棟、釜屋1棟ほか

光泉寺の高石垣と昭和29年ジェーン台風の際の冠水水位標柱

明治

藍作、盛んに行われる



明治36年(1903)
蚕種共同掃立場が設けられ、養蚕業が盛んになる。

近世後半の建築のI家。高石垣上に建物を配置し、敷地外周に生垣をめぐらせる。主屋には、ヤマト・イラカの避難施設や、釜屋を設ける。主屋の西側には、寝床(納屋)と土蔵が並ぶ。

大正

瓦屋根の普及



昭和

昭和36年(1961)
脇町潜水橋完成

昭和6年(1931)年建築のY家。高石垣上に主屋、寝床(納屋)、土蔵を配置し、敷地外周に生垣・水防林をめぐらせる。建物の間取りは、蚕の飼育に用いる「エビラ」に合わせている。

昭和39年(1964)
美馬南岸用水が完成。
畑の水田化が進む



脇町潜水橋。もと「舞中島渡し」のあった場所付近に架橋されている。

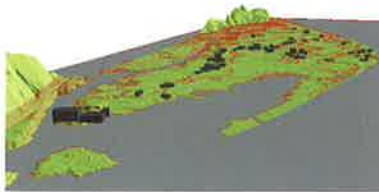


美馬南岸用水。地表より高い位置に水路がある。

平成

昭和53年(1978)
舞中島地区の吉野川堤防の築堤工事が完了

農地の宅地化が進む



台風23号の推定冠水水位。灰色が冠水範囲、■の立方体が高石垣家屋の盛土高さを示す。



舞中島地区の北東側は、小字名「ウズ」が示すとおり、浸水が激しいところであった。そのため、宅地化されずに残った